

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10  
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091  
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp  
[HPアドレス] <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>

2016.3  
第25号



おたかの道  
湧水園内

## 日本多家住宅長屋門の保存修理工事・発掘調査がはじまりました

国分寺市重要有形文化財（建造物）日本多家住宅長屋門は、現在、保存修理工事が行われています。屋根や壁から順番に建物の構造や部材の痕跡を調査しながら丁寧に解体を行い、平成28年2月中旬には現地は礎石を残すのみとなりました。解体された長屋門の部材は全て長屋門西側の仮設小屋へ収納しています。

弘化5年（1848）「表御門御長屋仕様御注文」（本多良雄家文書）によると、屋根の構造がサスとなっていることから、創建後に屋根周りを解体前の和小屋に改造したと予想していましたが、部材調査の結果、その痕跡は確認できませんでした。そして解体前の和小屋を支える部材に鉾（表面の仕上げに使う鉋より古い工具）で削った痕跡が残り、明治時代中期以前の部材であることが判りました。また、古文書で入口や階段と表記されている付近の柱や梁には、当初からと推定される材が使われていましたが、入口や階段があったことを示す痕跡が見つ

からないなど古文書と既存建物の関係については謎が残っています。現在も番付（設置場所を示す印）の記録、詳細な採寸など部材の調査は進行中です。

なお、部材調査と並行して、平成28年2月下旬より発掘調査を実施しています。長屋門は現位置にて復元しますが、安全性確保のため、コンクリート基礎を敷設します。その範囲を対象に、既存礎石より下部の状況を調査するものです。史跡指定地内なので、工事が古代武蔵国分寺の遺跡に影響しないよう確認するとともに、長屋門の礎石の据え付け状況の調査、カマドや囲炉裏などの有無、建て替えがあったかどうか、また日本多家は江戸時代初期より続き、江戸時代中期より村の名主を務めた家であるため、その屋敷地入口付近にさらに古い建物があったかどうかなどを調査します。今後は、建物調査と発掘調査の両方の成果を照らし合わせ、長屋門が実際にどのように建てられたのか検証を進めていきます。

（野中太久磨）



解体前の長屋門（南東から）平成27年12月15日



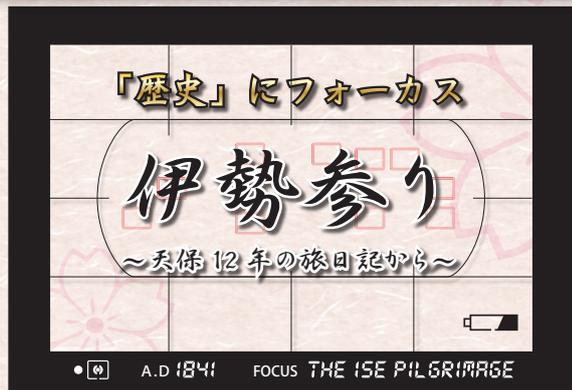
小屋梁解体状況（西から）平成28年2月12日



屋根解体状況（南東から）平成28年1月22日



発掘調査区全景（東から）平成28年3月4日



江戸時代後半、農村に暮らす人々にとって、日常から離れて信仰や修行のために寺社を参拝する旅が楽しみのひとつでした。武蔵国分寺も江戸近郊の名所として地誌や名所案内に取り上げられ、多くの人が訪れていました。

では、当時の国分寺村の人々ほどのような旅にでかけていたのでしょうか。江戸時代にもっとも一般的な旅といわれ、信仰と娯楽が一体化した伊勢参りの様子を、天保 12 年(1841)の旅日記から紹介します。

江戸時代になると治安が安定し、幕府による街道の整備が進むなど、旅がしやすい環境になったことで、江戸時代後期には農民や町人などの庶民による寺社参詣を目的とした旅が多く行われるようになりました。

その中でも伊勢神宮へ参詣に赴く伊勢参りは盛んに行われ、特に農閑期である 1 月から 3 月にかけてはたくさんの方が伊勢に訪れています。また、伊勢参りでは伊勢からさらに西国まで足を延ばすこともあり、旅の期間は 1 カ月から 2 カ月を要しました。

江戸時代に国分寺村(現西元町・東元町)の名主を務めた本多家の文書(本多良雄家文書)によれば、江戸時代を通して少なくとも 14 回は国分寺村から伊勢参りに出かけていたことが確認できます。この伊勢参りに参加した一人である金子四郎右衛門によって作成された『伊勢参宮帳』には、宿泊や休憩に利用した宿場、立ち寄った名所、旅にかかった経費が 1 日単位でまとめられており、その日の足取りをたどることができます。

この伊勢参りは国分寺村 19 名と恋ヶ窪村 1 名の 20 名が参加した旅となり、天保 12 年(1841) 1 月 15 日から 1 月 29 日までは 2 月 18 日までの 61 日間で国分寺村から四国の金刀比羅宮間を往復する旅程となりました(行程図参照)。

伊勢には 1 月 27 日から 1 月 4 日まで滞在し、四日市から伊勢路を通って伊勢神宮を参拝した後、六軒から初瀬街道に入り名張を経由して奈良に向かう経路をとっています。その内 1 月 29 日から 1 月 2 日の 3 日間を伊勢神宮の門前町である山田で過ごしています。

伊勢神宮は主神・天照大御神を祀る内宮と豊受大御神を祀る外宮に分かれており、それぞれの門前町では伊勢御師の屋敷や名物を扱う店が軒を連ね、賑わいを見せていました。伊勢御師とは、伊勢神宮の神職の一つであり、伊勢滞在中の参詣者の世話をしていました。また江戸方面からの参詣者は街道に近い外宮から内宮へ行く順路をとっていました。

1 日目は伊勢御師の龍太夫の案内の下、上記の順路で参詣に赴いています。午後に松坂から山田に到着すると、まず外宮へ参り、山田の名跡天岩戸を訪れた後、五十鈴川に架かる宇治橋を渡って宇治にある内宮を参拝しました。そこから更に山奥にある朝熊山の金剛證寺に進み、虚空蔵菩薩と地藏菩薩を拝観した後、有名な土産である萬金丹の店を見物して 1 日を終わりました。2 日目は龍太夫の屋敷で 1 日を過ごし、3 日目の午前中に山田を出立して六軒に宿泊しました。

山田では龍太夫が参詣以外の世話もしていました。休



『伊勢参宮帳』

〈天保 12 年正月〉 金子忠男家文書(国分寺市教育委員会寄託)  
伊勢参りの道中で、寺社・名跡が集中する奈良・京や、善光寺などの名所をたどった道順が記録されています。国分寺市内に残る古文書の中で、伊勢参りの様子を記した唯一の記録としても貴重です。  
(国分寺市史編さん委員会・国分寺市「国分寺市史料集(III)」所収)

(正月) 廿九日  
一 中喰  
此間宮川舟渡し無賃也  
同 山田  
一 龍太夫  
外宮ニ参詣、天野岩戸江参り此間三味線古久お杉おたまのこやあり、閏正月一日宮参り  
豊受皇太神宮ト申奉る也  
是方古市ヲ通り内宮江趣也、牛谷同前ニ三味線さらすりうたう也、宇治橋五十川と申也  
内宮  
天照皇大神宮江参詣 是方朝熊江五十丁  
一 本尊虚空蔵菩薩也 参詣  
一 奥院ハ地藏菩薩也  
入口ニ万金丹薬店あり  
夫方龍太夫江立帰り、龍太夫ニ逗留致し  
立 一 泊り  
半御供と申金百疋、龍太夫対面致候、四ツ時出

『伊勢参宮帳』天保 12 年 1 月 29 日～閏正月 1 日条(部分)

憩や昼食の記録が確認できませんが、これらも龍太夫が手配して、彼の屋敷に宿泊していました。龍太夫をはじめとした伊勢御師は、全国各地の人々に伊勢神宮の布教を行っていました。布教の際には檀那場という担当地域が定められ、檀那場への配札で生計を立て、参詣者を自らの屋敷に泊め、食事や神楽で1日かけてもてなしていました。

龍太夫は山田に居住し、国分寺村を含む多摩郡に多くの檀那場を所有していました。屋敷での出来事に関する

記述はなかったものの、2日目に丸1日屋敷にとどまり、出立の際に金100疋が支払われている事から、屋敷でもてなしを受けた事がうかがえます。この様に、伊勢御師による歓待も伊勢参りの魅力となっていました。

しかし明治4年(1871)に神職としての伊勢御師そのものが廃止されると、伊勢御師の中には屋敷を利用して参拝客を泊める宿屋を営む者も現れ、時代が変わっても伊勢神宮を訪れた人をもてなしていました。

(学芸員 石井 秀和)



天保12年伊勢参り 行程図



伊勢神宮 内宮 (現況)



宇治橋から五十鈴川を望む

## NEWS

### 市民歴史講演会「東山道武蔵路を探る」を開催しました

平成28年3月6日に国分寺Lホールにて平成27年度市民歴史講座「東山道武蔵路を探る」を開催しました。今回の講演会は国分寺市・坂戸市第1回合同企画展「東山道武蔵路を探る～路でつながる古代の国分寺と坂戸～」(3月16日終了)と連動して行われたもので、当日は144名の方にご来場いただきました。

講演会は2部構成で行われました。第1部の「国分寺市域の東山道武蔵路」は、国分寺市教育委員会ふるさと文化財課の増井有真が講師を務めました。古代官道である東山道武蔵路をテーマに、駅制に基づく形で全国に整備された古代道路の実態を説明しました。さらに、国分寺市域で明らかになった東山道武蔵路の規模、敷設の際に湿地帯や斜面地で用いられた古代の土木工法などを紹介しました。

第2部は坂戸市立歴史民俗資料館の藤野一之氏に「古墳から寺院へ～路と瓦でつながる古代の国分寺と坂戸～」の演題で講演していただきました。律令国家への移行期である7世紀について、中国大陸・朝鮮半島における動乱、古墳から寺院へのモニュメントの転換、そこに見られる技術や遺物の共通性など話は多岐に及びました。そこから武蔵国内の様相、坂戸市にある勝呂神社古墳や勝呂廃寺にみる変革、そして東山道武蔵路を通じた国分寺市と坂戸市の関わりについてお話いただきました。



国分寺市・坂戸市合同企画展『東山道武蔵路を探る』展示風景(武蔵国分寺跡資料館)



歴史講演会(国分寺Lホール)

第33回「万葉花まつり」 武蔵国分寺跡発掘調査開始 60周年記念



平成 28 年 4 月 10 日 (日) に武蔵国分寺境内、史跡武蔵国分寺跡 (史跡公園) で、第 33 回万葉花まつりが開催されます。万葉花まつりは「歴史・自然・人との出会い」をテーマに市民の手によって開催されるお祭りです。今年は、昭和 31 年に史跡武蔵国分寺跡の科学的な発掘調査が開始されてから 60 年の節目にあたる記念の年でもあります。様々なイベントに参加しながら、歴史的な調査に思いを寄せてみてはいかがでしょうか。会場では、文化財に親しんでいただくためのイベントもありますので、この機会にぜひご参加ください。

拓本体験

ふるさと文化財課の出張ブースでは、武蔵国分寺跡から出土した古瓦の拓本をとる体験教室を実施します。瓦の上に紙をあてて色鉛筆などで擦る乾拓なので、どなたでも気軽に参加いただけます。ブースでは、武蔵国分寺跡の発掘調査の写真も展示します。

【時 間】 10:00 ~ 16:00  
 【ブース設置場所】 武蔵国分寺金堂・講堂跡北東入口  
 ※場所は下記の地図をご参照ください  
 【参加費】 無料

史跡ミニめぐり

国分寺市の史跡ガイドボランティアが武蔵国分寺跡周辺の見どころを解説する史跡ミニめぐりを行います。

【時 間】 ①10:30 ~ ②11:30 ~ ③13:30 ~  
 【コース】 約1時間

講堂跡・金堂跡→南門・中門跡→七重塔跡→真姿の池湧水群→おたかの道湧水園・武蔵国分寺跡資料館 (予定)  
 【定 員】 各回 10 名前後  
 【集合場所】 武蔵国分寺金堂・講堂跡 北東入口  
 【参加費】 おたかの道湧水園の入園料 100 円  
 【問合せ先】 史跡の駅 駅長 042-312-2878

来館者数

2009 年 10 月 18 日 ~ 2016 年 1 月 末日

来館者数累計 94,547 名

多くのご来館ありがとうございました

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

月	来館者数	開館日数
12	588	24
1	315	24
計	903	48

教職員の方へ

学校の教育活動等で入園・入館される場合は、入園料の減免対象となることがあります。詳しくは、武蔵国分寺跡資料館までお問い合わせください。

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】 JR国分寺駅下車 / 徒歩約20分 JR西国分寺駅下車 / 徒歩約15分

【バス】 国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車 / 徒歩約8分  
 国分寺駅南口より「京王バス」系統番号〈寺83〉・〈寺85〉乗車「泉町一丁目」下車 / 徒歩約8分

※駐車場はありません

■開館時間

午前9時～午後5時 (入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日 (祝日・振替休日の場合はその翌日)  
 年末年始 (12月29日から1月3日まで)  
 ※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)  
 一般……………100円 (年間パスポート1,000円)  
 中学生以下……………無料

〔入園料の減免規則があります〕

- 学校の教育活動で生徒 (中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前 (5日前まで) に減免申請書の提出が必要です。〕
  - 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
  - その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前 (5日前まで) に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡  
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページQRコード